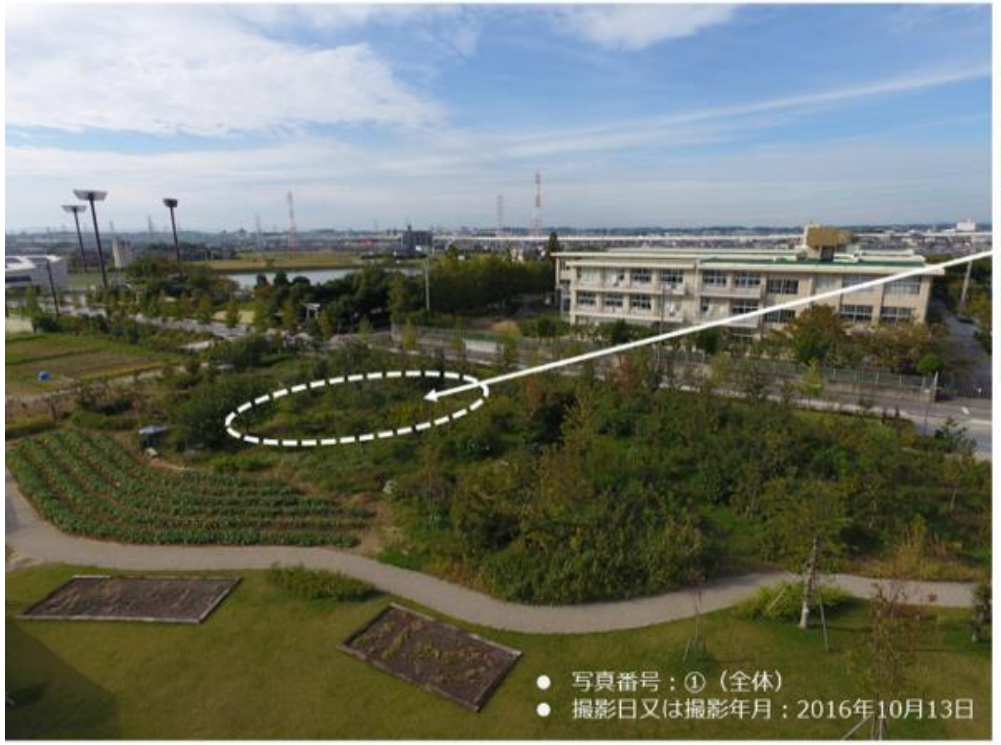
場所　愛知県刈谷市

面積　0.49ha

活動目的　地域の生物多様性拠点として、失われつつある刈谷北部の自然を当社の自然共生活動により取り戻し、人と自然の共生を確保する。この活動を通じて、従業員、地域住民などの生物多様性保全意識を醸成し、環境との調和がとれた持続可能な事業活動を目指す。

サイト概要　本社・富士松工場の周辺環境は、市街化が進み、工場の周辺では生物の生息空間となる緑が分断され、生物多様性の劣化が危惧されていた。そこで、愛知県と連携しながら刈谷北部の生態系ネットワーク形成の拠点づくりを目指し、2014年に地域の「生態系インフラストラクチャー」のモデルケースとして自然と生き物、地域の方々がふれあえるビオトープ、雑木林、鎮守の森、果樹園、田畑等を兼ね備えた刈谷ふれ愛パークをオープンした。





土地利用の変遷

元々は梨畑、田んぼ、従業員の駐車場であったが、COP１０付近での生物多様性の機運が高まる中で、地域の生態系インフラストラクチャーとしてトヨタ車体株式会社が土地を所有し、2014年から里山環境を活かした地域の憩いと生物多様性の拠点としてふれ愛パークの管理を実施している。

サイト周辺の環境

市街地化が進み、身近な自然が失われつつある。また、工場周辺の池には、希少種などの生物が残存しているが、周辺のため池で外来生物が繁殖し、その影響で、ふれ愛パークに外来生物が増えつつある。

アピールポイント

2000年初頭にビオトープの整備が盛んであったが「後発の利」を生かして生物多様性国家戦略、あいち生物多様性地域戦略2020を参考に、生物多様性に配慮した次の３つの取り組み方針を掲げている。（１）生態系NWの拠点づくり（指標種７０種を設定）、（２）自然を活用した人づくり（連携、協働した産官学民での人づくり）、（３）持続可能なパークづくり　　（地域連絡会を設置）



生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

刈谷市の原風景を取り戻すために、水辺環境を基調としてエコトーンや自然と調和を図りながらこの地域で盛んな田んぼ、果樹園、畑などの管理を行っている。また、コナラ、アベマキとこの地域に生育する落葉樹など二次林を形成し、里山づくりを行っている。

【主な植生】

ビオトープづくりは、2013年の施工計画から専門家の指導を受けて、刈谷周辺の水辺環境をモデルに水辺のエコトーンを基調とし、ウキヤガラ、ヤナギタデ等の地域の在来湿性植物や、刈谷に生育しているアベマキ、コナラの落葉樹を中心に2014年に整備した。

【確認された主な動植物など】

2019年までに、指標種として設定した70種の動物のうち、ゴマダラチョウ、ショウジョウトンボ、ニホンカナヘビ、トノサマガエル、カワセミ、カシラダカなど46種の生息が確認されている。
植物は185種が確認されており、そのうち在来種はアシカキ、アシボソ、ミゾソバ等の131種である。一方、54種の外来植物も生育しているが、キシュウスズメノヒエ、セイバンモロコシ等の生態系被害を及ぼす種を優先して駆除している。
また、生態系保護の観点から地域の絶滅の危機に瀕しているミナミメダカ等の域外保全も併せて行っている。





写真説明：ゴマダラチョウ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

地域の象徴である水辺環境をモデルに、水辺のエコトーンを基調としてビオトープと、鎮守の森、雑木林、果樹園、水田などを整備して多様な環境を創出している。ビオトープづくりでは、専門家から毎年ご助言をいただき育成管理に生かしている。また、未確認の指標種が生息できる環境の改善を行っている。環境教育では、近隣の学校や刈谷市の市民の方を対象にビオトープを生かした人づくりを行っている。

【主な植生】

周辺のため池を愛知教育大学とともに調査し、タデ類、セキショウモ、クロモ、ヤナギモ、カキツバタ、ウキヤガラ、マツモなどを地域から移殖し、雑木林は、地域種のコナラ、アベマキの落葉樹を植えている。

【確認された主な動植物など】

カブトムシ、クロアゲハ、樹林性の鳥類としてシジュウカラ、水辺を好むカワセミ等、145種の動物が確認されている。



分類	種数	
	2016年調査	2019年調査
昆虫類	94	108
哺乳類	0	1
鳥類	13	18
爬虫類	3	4
両生類	4	4
魚類	5	4
エビ類	1	2
貝類	1	4
計	121	145

調査期間：2019年5月27日～2020年3月13日（生物調査）



写真説明：チョウトンボ



写真説明：ビートルハウスのカブトムシの幼虫

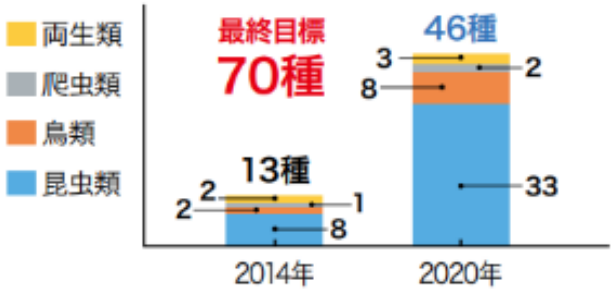
生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

地域の失われた原風景を復元するべく指標種を70種設定し、トノサマガエル、ミナミメダカなどの希少種が生息、生育する里山整備を行っている。

【確認された希少種】





トノサマガエル

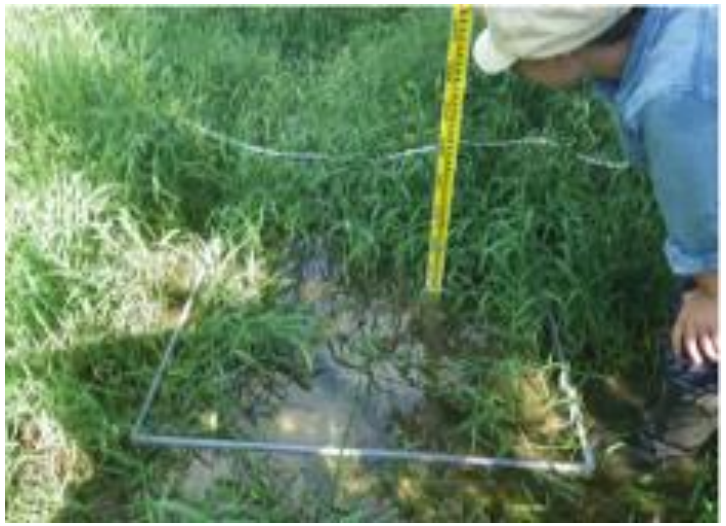


写真説明：オオアメンボ（県内NT）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

「刈谷ふれ愛パーク　ビオトープ　育成管理基準書」に基づき、毎年ビオトープの管理を計画する。ふれ愛パークのビオトープにおいて育成管理目標種（70種）を達成するために「生物多様性」に配慮しながら「刈谷ふれ愛パーク　ビオトープ　育成管理基準書」に基づいて適正に維持・管理を行う。
体制について、日常管理は総務部、生物多様性の関する専門的なところはPE環境（現プラント環境生技部）が管理を専門家と行う。



植物調査の風景（愛知教育大学）

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

(1)動物調査：昆虫類等調査、哺乳類、両生類、爬虫類、鳥類、魚類・貝類・エビ類調査、四季の計４回（魚類は夏に１回）5年に一度
(2)植物調査：ふれ愛パークの整備完了以降、（毎年、5月、9月、11月で実施）

【モニタリング場所】

刈谷ふれ愛パーク、周辺のため池（岩ケ池、南池、唐池、吹戸池、新池）、山神社

【モニタリング手法】

アセスメント調査と同様の手法（生物調査）
　植生調査、トランセクト調査（植物）

【モニタリングの実施時期及び頻度】

3～5年（生物調査）
　毎年（植物調査）

【モニタリング実施体制】

生物調査（調査会社、名城大学　戸田研究員）
植物調査（愛知教育大学、芹沢名誉教授、常木講師）